

[株]島精機製作所見学会

6月2日 [金]

株式会社島精機製作所は、1962年に手袋編機の自動化から出発し、今日ではハードとソフトの総合メカトロニクス企業として発展を遂げた世界的にも著名な企業です。

今回の見学会では、同製作所の誇る6つのデザインシステム(マイクロデザイン・スーパープリント捺染デザインシステム・トータルデザイン・ハイ

パーペイント・自動ライティングシステム)を、ビデオと実地見学によってご紹介いただきました。また、編機・製反機・自動裁断機の説明を受けたり、編地室では各機種の編地(インターシャ、シンカー・ループ等)のスワッチも見せていただいたりと有意義な時間を過ごせました。

■ マイクロデザイン・システム

コンセプト・マップ、スタイル画、素材マッピング、配色検討・画像合成等、デザイナーのプレゼンテーション企画ツールとして、また樹見本作成や着装シミュレーション等の素材企画、あるいはカタログ作成等の販促ツールとしても、大いに活用できるシステムです。

■ スーパー・プリント

デザインからトレース、分版に至るまで、捺染彫刻関連の工程をトータルにこなすシステムです。

2台のモニターを利用して、細部拡大と同時に全体も見ながら、柄癖の修正や全体のバランス・チェックの作業を並行して行えます。

これまでは、CGのデザインから分版までの読み取りが難しかったのが、デザイナー自身がプリントの型枚数を把握しながら指図出来るという画期的なシステムです。

■ トータル・デザイン

マイクロデザインのコンパクト化されたシステムをビデオで紹介。

■ 刺繍トータルデザイン

刺繍デザインの作成・配色検討・仕上りイメージの作成と同時に、刺繍用データを作成するCAD機能・仕上りシミュレーション機能が一体となったシステムです。

刺繍デザインの輪郭抽出、ドラフト、下打ち等、これまでは相当な時間を割いていた作業が自動化され、わずか2分で読み取り可能になります。

また、ニットの網目に沿った刺繍が出来るのも特徴の一つです。

一見インターシャ柄に見え、製品コストも安く仕上がるというのが、見学したニット・デザイナーの方の評価でした。

■ ハイパー・ペイント II

ハイビジョン・モニターと大型ハイビジョン・プロジェクター(120インチ)とを接続することで、実寸大撮影が可能。

模型製作に比較して、素早く、コストもかからず、臨場感のある立体的な表現が出来るのでカー・デザインには多く使われています。

■ 自動ライティング・システム

写真撮影時に、多くの時間と経験を要していたライティングの設定をロボット化したものです。

プロ・カメラマンのライティング技術を、そのまま1枚のフロッピー・ディスクに納めたデータを手に入れることが出来るため、プロでなくてもプロに匹敵する画像撮影が可能になる訳です。

* 残念ながら今回参加出来なかったと言う方々に、実際に以上のシステムを使った作品を見て頂く機会をご紹介しておきます。NHK-TVで放映中の大河ドラマ「吉宗」のタイトル映像がそれです。これは、実在の絵巻等の文化財を下絵にして、ハイパー・プリントやマイクロ・デザイン等のシステムを駆使して作成されたものです。絵巻の中で、人や動物が動いている様子がとても面白く、中でも見返り美人が振り向くシーンでは、それを受けた奴さんがポーと頬を染めるところなどユニークな作品に仕上がっていて、一見の価値があります。



* 参加者の感想

「以前からCGとデザインワークとの関連で、「島精機」の名は聞いていましたが、なかなか具体的に知る機会が無く、特に個人的には行けなかったので、今回喜んで参加しました。最近、個人的な手編み感覚のニットを、若者が着こなし始めているのをよく見かけるのですが、その根源を見せてもらって唯唯関心するばかりです。手編でないといけないと思われていた表現ができ、ボタン・ホールまで付いて編み上げられているのには、びっくりでした。」

[スタジオ・ワーク 加藤美津子氏]

今回の見学会・セミナーは、当協会がまだ正式に発足する前の2月頃から、事業・研究担当の理事間での企画会議が始まり、4月には概要の決定、同月末には案内状の発送という慌しいスケジュールでスタートしました。

幸い、見学会62名、セミナー受講者95名(会員46名、学生49名)という当初の予想を上回る参加者を得て、無事成功裡に終えることができました。